CORONA

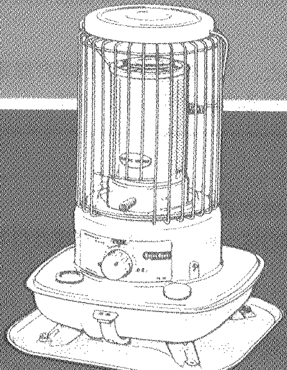
コロナ自然通気形開放式石油ストーブ

取扱説明書

367185

正しく使って上手に節約

SZ-20



このたびは、コロナ石油ストーブをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。

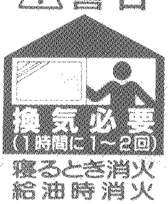
なお、お読みになった後もお使いになる方がいつでも見られる所に「保証書」と共に大切に保管してください。

燃料は必ず良質の灯油（JIS 1号灯油）を使用してください。

⚠危険



⚠警告



もくじ

株式会社コロナ

1.特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

⚠警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

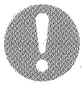
絵表示の例



⚠記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は一般的な注意）が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合はガソリン禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は一般的な行為の指示）が描かれています。

⚠危険

●ガソリン厳禁

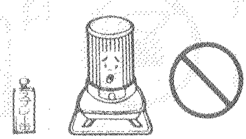
ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。



⚠警告

●スプレー缶厳禁

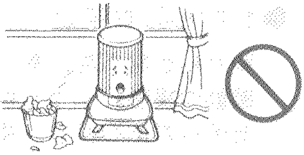
スプレー缶をストーブの上や近くに放置しないでください。
熱でスプレー缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。



⚠警告

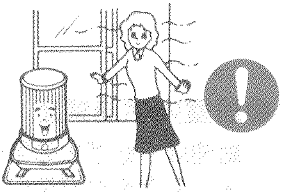
●カーテン、可燃物近接厳禁

カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しないでください。
火災の原因になります。



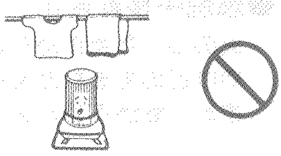
●換気必要

換気せずに使用しつづけないでください。
酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。
使用中は必ず1時間に1～2回（1～2分）換気して、新鮮な空気を補給してください。
窓の凍結、地下室など換気が十分に行えない場所では、使用しないでください。



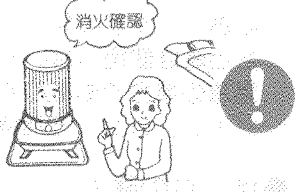
●衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。



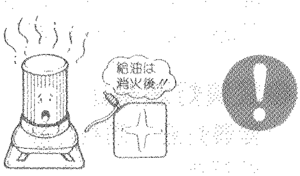
●寝るとき消火

寝るときや外出するときは、必ず消火してください。
又、人目の届かないところでは、使用しないでください。
不完全燃焼や異常燃焼・火災のおそれがあります。
消火の際は、必ずしん調節つまみが消火位置にもどり、火が消えたことを確かめてください。



●給油時消火

給油は、必ず消火してから行ってください。
火災の原因になります。
こぼれた灯油は、よくふきとってください。
給油口ふたは確実に締めてください。



●可燃性ガス使用厳禁

ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの（ベンジン、シンナー、ガソリン）、スプレーを使用しないでください。
火災や故障の原因になります。



1. 特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください

⚠警告

●やかんのせ禁止

やかんやなべなどをのせないでください。
振動や接触によってやかんやなべなどの熱湯がこぼれ、やけどのおそれがあります。また、なべの煮こぼれによってストーブ内部の部品が損傷するおそれがあります。

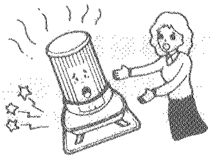
⚠注意

●居室内給油禁止

給油は、必ず火の気のないところで行ってください。
火災のおそれがあります。

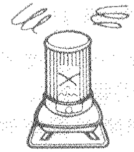
●燃焼中移動禁止

火のついたまま持ち運ばないでください。
やけどのおそれがあります。
また、転倒すると火災の原因になります。



●異常時使用禁止

におい、すすの発生、炎の色など異常燃焼を起こしたときは使用しないでください。
緊急の場合でもあわてずにしんを下げて消火してください。（13ページ参照）



●ほこりの除去

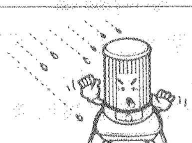
ほこりを、ときどき除去してください。
ごみ、ほこりなどがつまると、異常燃焼のおそれがあります。

●変質灯油禁止

変質灯油、汚れた油、水の混じっている灯油などを使用しないでください。
異常燃焼やしんが下がらなくなるおそれがあります。

●水かけ禁止

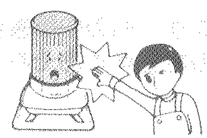
ストーブには、水をかけないでください。
水がかかるとガラス外筒や天板のほうろうが割れることがあります。



⚠注意

●高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部（図の赤色部分）に手などふれないでください。
やけどのおそれがあります。



小さいお子様やからだの不自由な方のいるご家庭では、特に注意してください。

●純正部品の使用

しんなどの部品は、必ず純正部品(指定された部品)を使用してください。
予想しない事故が発生するおそれがあります。

●分解修理・改造の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理や改造は、危険です。

お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

●保管時にしていただくこと

長期間使用しないとき又は保管するときは、必ず灯油を抜いて(乾電池を取り外して）ください。
傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。
火災のおそれがあります。

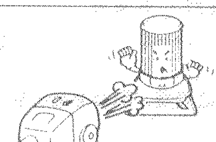
●次の場所では使用しない

火災や予想しない事故の原因になります。

- 水平でない場所、不安定な場所
- 風のあたる場所、部屋の出入口
- ほこりや湿気の多い場所
- 不安定な物をのせた棚などの下
- 可燃性ガスの発生する場所又はたまる場所
- 温室、飼育室など人のいない場所
- 理·美容室、クリーニング店などスプレーや化学薬品を使う場所
- マントルピースなどストーブが囲われる場所
- 直射日光があたる場所

●掃除機の排気に注意

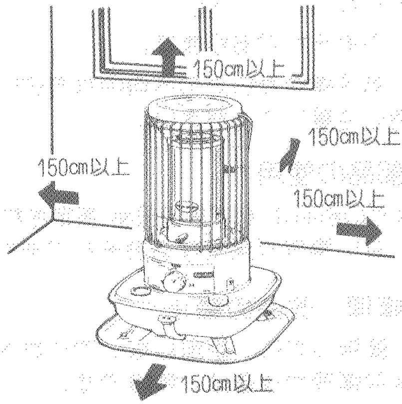
燃焼中に掃除機の排気などをあてないでください。
風があたると赤火が出たり、異常燃焼の原因になり危険です。



⚠注意

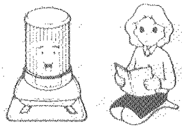
●可燃物との距離を離す

燃えやすいものや障害物とは、必ず下図に示す距離をとって設置してください。
火災の発生するおそれがあります。



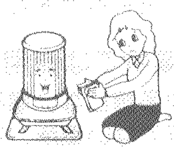
●正常燃焼の確認

正常に燃焼していることを確認してください。
しんが上がりすぎたり、燃焼筒がずれていたりすると異常燃焼し危険です。



●日常のお手入れ時の注意

日常の点検・手入れは必ず行ってください。
点検・手入れは、ストーブが冷えてから行ってください。（14ページ参照）
やけどのおそれがあります。

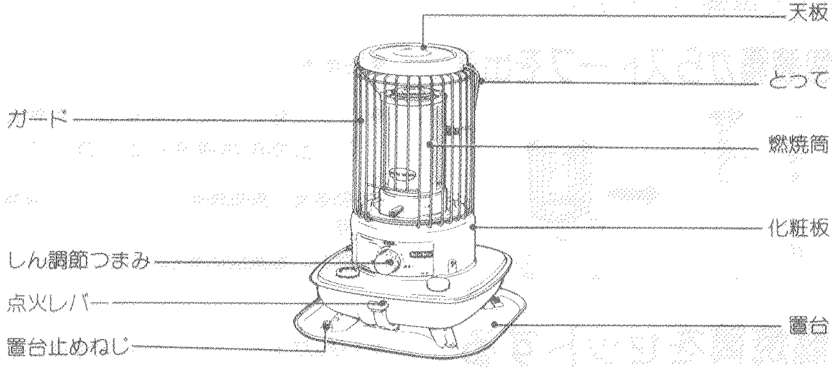


2.効果的に使用するために

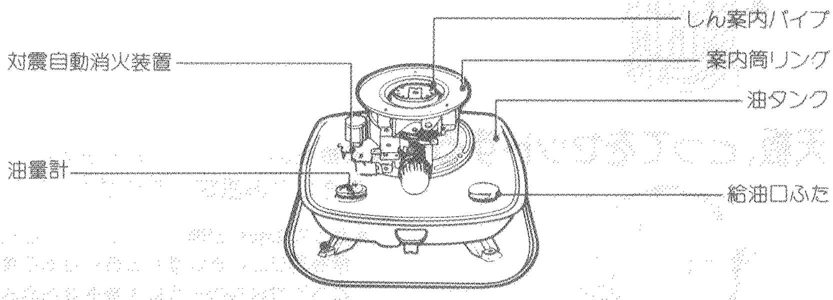
- 部屋の中央部に置くと暖められた空気が対流循環し、室内の温度むらが少なくなり、効果的な暖房ができます。
- 扇風機やサーキュレーターなどで室内の空気を対流されると、より効果的な暖房ができます。
- ストーブに直接、風があたらないよう注意してください。

3.各部の名称

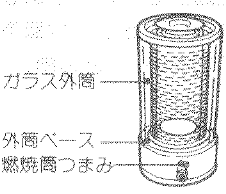
外観図



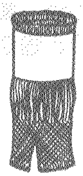
構造図



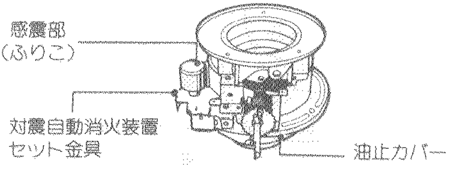
主な構成部品



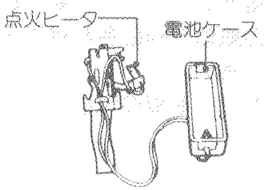
燃焼筒



しん



しん案内筒



点火装置

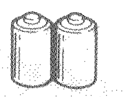


電池ケースカバー



しん調節つまみ

付属品



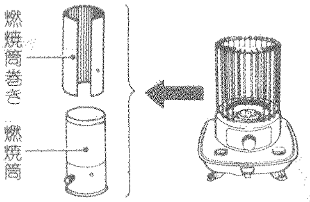
乾電池(単一)2個

4.使用前の準備

開こんと部品のセット

次の順序で準備してください。

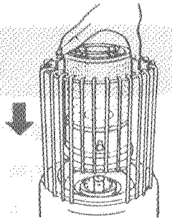
1 包装箱からストーブを出す



- 包装箱からストーブを取り出してください。
- とってをいったんはずし、燃焼筒を保護している燃焼筒巻きを取り除いてください。

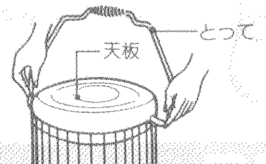
 - 包装箱、燃焼筒巻きはストーブの保管に必要です。
 また、取扱説明書も忘れずに保管してください。

2 燃焼筒をセットする



- しんが下がっているのを確認して、燃焼筒つまみが正面に向くように入れ、しん案内筒に正しくのせてください。

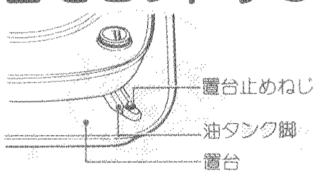
3 天板、とってをセットする



- 天板をのせて、穴と穴を合わせて、とってをさしこみ固定してください。

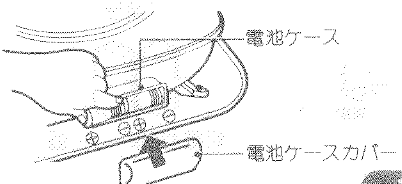
 - とっての曲りが開いて、グラグラ左右に動くと持ち運びのときはずれる恐れがありますから、とってがばねのように天板をはさむようにしてください。

4 置台をセットする



- 置台の刻印「正面」をストーブの正面に合わせ、置台止めねじで油タンク脚をしっかりと固定してください。（2ヵ所）

5 乾電池をセットする



- 後側にある電池ケースに、付属の乾電池を電池ケースの絵の方向に合わせて正しくセットしてください。
- 電池ケースカバーを取り付けてください。

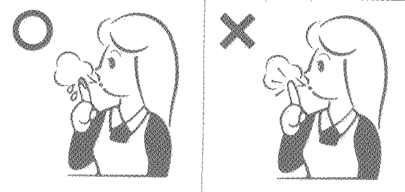
燃　料

燃料は必ず灯油(JIS1号灯油)を使用してください。

- ⚠危険　ガソリンなどの揮発性の高い油は絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。
- ⚠注意　変質灯油、不純灯油、汚れた油、水の混じっている灯油などは絶対に使用しないでください。
- 添加剤や助燃剤などは使用しないでください。
- 灯油は必ず火気・雨水・ごみ・高温および直射日光を避けた場所に保管してください。

灯油とガソリンの見分けかた

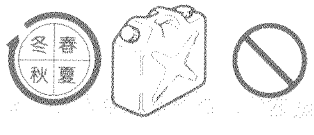
指先に燃料をつけ、息をふきかけます。
(火の気のない所で行ってください。)



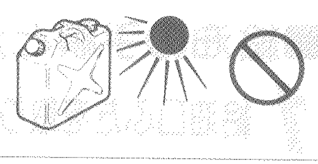
灯油はぬれたまま　　ガソリンはすぐ乾く

■変質灯油・不純灯油とは……

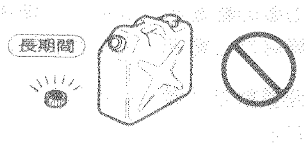
昨シーズンより持ち越しの灯油



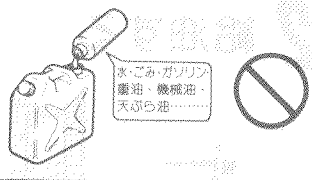
長期間日光にあたる所や、温度の高い所に保管した灯油



容器のふたが開けてあったり、乳白色のポリ容器で保管した灯油



水・ごみや灯油以外の油がほんのわずかでも混入した灯油



- 極度に変質したものは、黄色味がかったり、すっぱい臭いがします。
- 必ず灯油用のポリタンクをお使いください。
- 灯油はシーズン中に使いきりましょう。

■変質灯油や不純灯油を使用すると…

- 油の程度にもよりますが、1日～30日のご使用で、しんの先端にカーボンやタールが付着し、その部分がかたくなると同時に厚くなって、対震自動消火装置が作動しても、しんが下がらず消火しないことがあります。
- 赤熱ムラが出たり、燃焼筒が暗くなり、激しいにおいがしたり、異常燃焼したりします。
- 油タンクに灯油が残っていても火力が小さくなったり、しんが下がらなくなったりします。
- 点火してから完全燃焼まで時間がかかります。
- 油タンクが腐食する原因になります。

■万一変質灯油や不純灯油を使用したときは…

- 油タンク内の灯油を抜き、きれいな灯油で2～3回洗ってから使用してください。（悪い油が残っていると再発します）（15ページ参照）
- しんの手入れをしてください。（16ページ参照）
- しんの手入れをしても効果のないときはしんを交換してください。しんの交換はお買い求めの販売店又は、コロナお客様ご相談窓口にご相談ください。（18ページ参照）

ご注意
- 変質灯油、不純灯油が原因で修理を依頼されたときは、保証期間中でも保証の対象外となります。
- 変質灯油の処理でお困りの場合は、灯油をお買い求めの販売店にご相談ください。

給　油

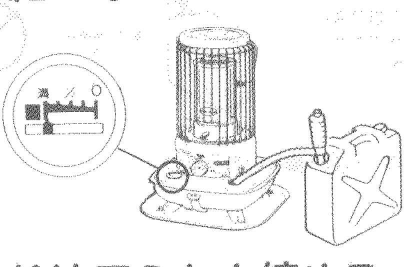
- ⚠警告 給油は、しんを下げて消火し、必ず火が消えたことを確かめてから行ってください。

■給油の手順と注意

1 給油口ふたを取りはずす

- 給油口ふたを左にまわして取りはずしてください。

2 給油する



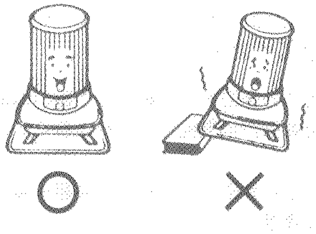
- 市販の給油ポンプなどを使用して、油量計を見ながら給油してください。
- 油量計が「満」をさしたら、給油をやめてください。

3 給油口ふたを締める

- 給油口ふたは、確実に締めてください。
- こぼれた灯油はよくふきとってください。

点火前の準備と確認

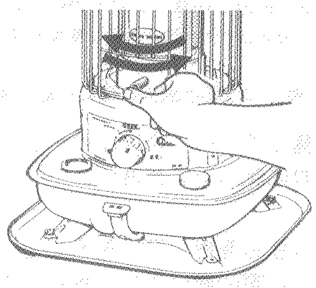
水平な場所に設置



● ストーブは、水平で安定のよい床の上に設置してください。

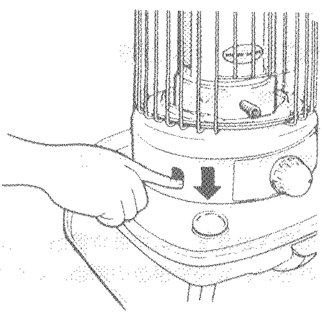
● 傾斜した場所や振動の激しい場所で使用すると、異常燃焼や対震自動消火装置の誤作動の原因になります。

燃焼筒の据わり確認



● 燃焼筒のつまみを持って左右に、2～3回動かして、しん案内筒に正しく据わっているかを確かめてください。

対震自動消火装置のセット



● 化粧板内の対震自動消火装置セット金具を下に押して、しん調節つまみを右（燃焼）方向に止まるまでまわしてしんを上げることにより自動的にセットされます。

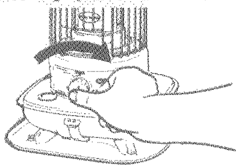
● セットしなければ使用できません。
● 使用中は、セット金具を押し上げないでください。対震自動消火装置が作動します。

5.使用方法

点　火

■電池点火のしかた

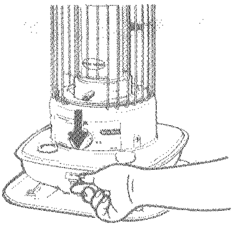
1 しん調節つまみを右（燃焼）方向へまわす



●右（燃焼）方向にまわしきって、しんをいっぱいに上げてください。

●まわすとき「カチカチ」と音がして重いのは、対震自動消火装置が自動的にセットされているためです。
●一度セットされますと、しん上下は軽くなり、音もなくなります。

2 点火レバーを押し下げる

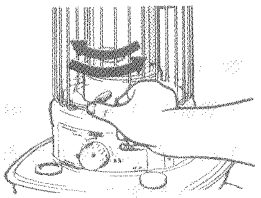


●ゆっくり押し下げてください。
燃焼筒が傾き点火します。

●点火ヒータ付近から白煙が上がるだけで点火しない場合は、点火レバーを少し戻しますと点火します。
（逆に強く押しつけると点火しにくくなります。）

●点火を確認してから、点火レバーをもとの位置まで静かに戻してください。

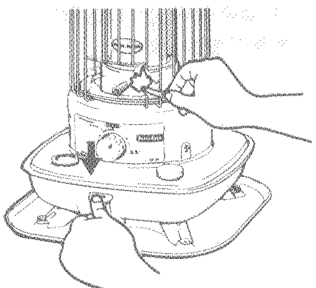
3 燃焼筒の据わり確認



●燃焼筒のつまみを持って、左右に2～3回動かして、しん案内筒に正しく据わっているかを確かめてください。

● ⚠注意 燃焼筒が正しく据わっていないと、最初から赤火ですすけて異常燃焼します。
正しく据え付けてください。

■マッチ点火のしかた ── 万一点火ヒータが使えないとき



1. しん調節つまみを右（燃焼）方向にまわしきって、しんをいっぱいに上げてください。
2. 点火レバーを押して燃焼筒を傾け、マッチで点火したら点火レバーをゆっくり戻してください。

ご注意 ●マッチの燃えかすをしん付近や置台の上に置かないでください。火災や事故の原因になります。

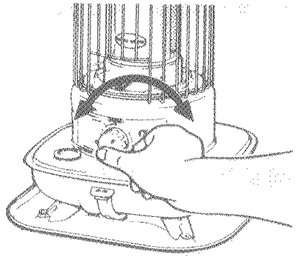
3. 燃焼筒つまみを持って、左右に2～3回動かし燃焼筒の据わりを確かめてください。

●初めてご使用になるときや、しんの手入れ、しんの交換、から焼きなどをしたときは、給油後20分以上放置して、しんに十分灯油がしみるまでおまちください。しんに十分灯油がしみないうちに点火すると、吸い上げ不足のため燃焼筒の赤熱不足が続くことがあります。このときは、いったん消火し、20分以上放置後点火してください。

●初めてご使用になるとき、点火後しばらく多少のにおいがしますが、これはストーブに付着している油などが焼けるときのもので、異常ではありません。

炎の調節

炎の調節はしん調節つまみで行います。



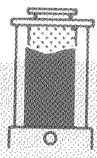
●しん調節つまみを右（燃焼）方向にまわすと炎が伸び、左（消火）方向にまわすと炎は小さくなります。
必ず〔正しい炎の状態〕の〔上限〕と〔下限〕の範囲内に調節してご使用ください。

●「パワーステップ」範囲内が正しい炎の調節範囲（めやす）です。

■炎の状態

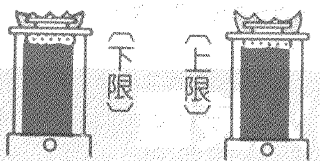
●炎や赤熱の状態を見ながら下図の〔正しい炎の状態〕の間で調節し、〔しんの下げすぎ〕や〔しんの上げすぎ〕の状態にならないようにしてください。

✕しんの下げすぎ



燃焼筒の上部が黒い。

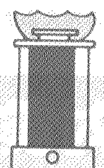
○ 正しい炎の状態 ○



燃焼筒が十分に赤熱している。

燃焼筒上の炎の伸びが4㎝以下。

✕しんの上げすぎ



燃焼筒上に炎が4㎝以上伸びている。

●点火後15〜20分たって、部分的な炎の伸びや、燃焼筒の赤熱ムラができるときは、燃焼筒つまみをもって左右に軽く2〜3回動かしてください。それでも炎が伸びてきたら、しん調節つまみをゆっくり左（消火）方向にまわして〔正しい炎の状態〕に調節してご使用ください。

●点火後そのまま放っておくと〔しんの上げすぎ〕のように炎が伸びて、すすや一酸化炭素が発生することがあります。また、〔しんの下げすぎ〕のように燃焼筒の赤熱が不足している状態で燃焼しますと、においや一酸化炭素が発生するばかりでなく、しんにカーボンが付着し、しん調節も重くなります。このようなときはしんの手入れをしてください。（16ページ参照）

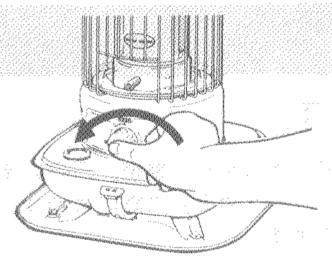
●しんを下げた状態から急にしんを上げると、炎が大きく上がることがありますので、ゆっくりしんを上げるようにしてください。

●燃焼中は点火操作をしないでください。点火レバーを押し下げると炎が上がります。また、点火ヒータのフィラメントが変形したり断線することがあります。

●換気扇・超音波加湿器などを使用すると、炎がピンク色になることがありますが、異常ではありません。

消　火

1 しん調節つまみを左（消火）方向へまわす



●ゆっくりと左（消火）方向に止まるまでまわして、しんを下げて消火してください。

●対震自動消火装置セット金具を押し上げたり、ストーブをゆさぶったり、傾けたりして消火しないでください。
●3～5分で消火します。
●しん調節つまみは約1回転しかまわりませんので、それ以上むりにまわさないでください。

2 消火の確認をする

●必ず消火の確認をしてください。

■対震自動消火装置が作動した場合は…
●しん調節つまみをまわして消火したときにくらべ、消火時の臭気が強くなります。
●変質灯油などで、しんの上部にタールなどが多く付着していると、しんが完全に下がりきらないで消火しないことがありますので、必ずしん調節つまみをまわして消火の確認をしてください。
このようなときは、しんの手入れをしてください。（16ページ参照）

消火後、すぐに再点火すると燃焼筒の温度が高くて、点火しなかったり、においがします。
燃焼筒が冷えるまで、5分くらい待ってから点火してください。

6.対震自動消火装置

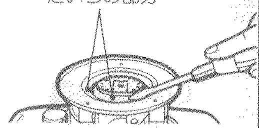
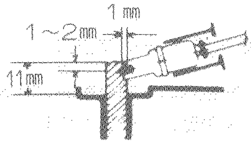
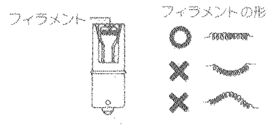
強い地震や振動、衝撃を受けたときは対震自動消火装置が作動して自動的に消火します。
化粧板内の対震自動消火装置セット金具を下に押してセットして、しん調節つまみを右（燃焼）方向に止まるまでまわしてしんを上げると、自動的に対震自動消火装置はセットされます。（10ページ参照）

●対震自動消火装置は、JISに定められた100～200ガルの振動により作動するように調整してあります。従ってご使用中における弱い日常的な振動、傾斜では作動しません。
●変質灯油などでしんの上部にタールなどが多く付着していると、対震自動消火装置が作動してもしんが完全に下がりきらないで消火しないことがあります。
このようなときはしんの手入れをしてください。（16ページ参照）
●地震によって作動した場合は、周囲の可燃物、ストーブの損傷、灯油のあふれなど異常がないことを確認した後、再点火してください。

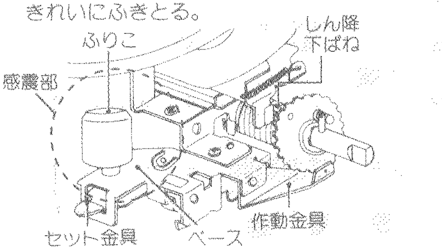
7.日常の点検・手入れ

点検・手入れは、消火後ストーブが十分冷えてから、行ってください。

- 対震自動消火装置を分解したり、油でふいたりしないでください。
- しんの標準出寸法は11㎜です。切ったり、長く引き出したりしないでください。
- 燃焼筒を落として、ガラスを割ったり、変形させたりしないでください。
- しん案内筒・油タンクは変形させたりしないでください。

	点検箇所		点検する内容	処置方法
使用ごと	置台 油タンク		●油漏れ・油のたまりや油のにじみがないか。	●油のたまりや、油のにじみはふきとる。 ●油漏れのある場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
使用ごと	外観	化粧板・油タンク・置台・ガードなど	●ほこりや汚れがないか。	●やわらかい布でふきとる。 (ベンジン、シンナー、クレンザーなどでふかないでください。)
使用ごと	外観	天板	●化繊などのほこりが焼きついていないか。	●しめらせたやわらかい布にクレンザーをつけてふきとる。
使用ごと	ストーブの周囲		●可燃物がないか。	●周囲を整理・清掃し、可燃物は取り除く。
使用ごと	乾電池		●ヒータの赤熱が弱くないか。点火しにくくないか。	●新しい乾電池と交換する。
月1回	しん案内筒		●たいらの部分に燃えかすなどがたまっていないか。 [燃えかすなどがたまると燃焼筒の据わりを悪くして、燃焼を阻害することがあります。]	●化粧板まで取りはずしてから(18ページ参照)、ドライバーの先で燃えかすなどを取り除く。 ●しんの先端をしん案内筒のたいらの部分に合わせ、燃えかすがみぞに落ちないように注意してください。 
月1回	点火ヒータ		●点火ヒータの位置(しんとの間隔)は正しいか。 [フィラメントが、しんに対してちょうど良い位置にないと点火しにくくなります。]	●点火レバーを押すと、しん案内筒から点火ヒータが出てきます。 しんの出が11㎜のときに点火ヒータの位置がちょうど良いところに来ます。  ●位置の調整はお買い求めの販売店に依頼してください。
月1回	点火ヒータ		●フィラメントの変形、断線はないか。	●変形しているときはマッチ棒などでまっすぐになおす。  ●変形がなおらないものや、断線したものは取り替える。(20ページ参照)

7.日常の点検・手入れ

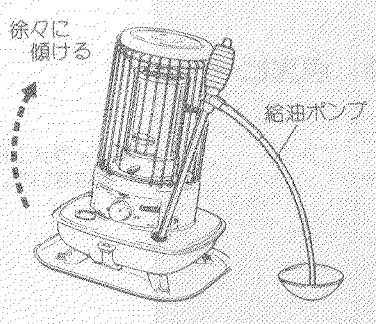
	点検箇所	点検する内容	処置方法
月2回	対震自動消火装置	作動具合 ●しん調節つまみを右（燃焼）方向へまわしてしんを上げ、ストーブを前後に強く動かしたとき、装置が作動して、しんが確実に下がるか。	●感震部、作動部を点検する。 化粧板まで取りはずしてから行ってください。 （18ページ参照）
2カ月に1回		感震部(ふりこ、ベース) ●ごみ、異物、ほこりなどが付着していないか。 作動部 (セット金具、作動金具、しん降下ばね) ●装置を作動させたとき、しんが確実に下がるか。 ●ごみ、異物、ほこりなどが付着して、動きが悪くないか。	●やわらかい布で、ごみ、異物、ほこりなどをきれいにふきとる。 
月1回		作動部(しん) ●しんの上下はスムーズか。 ●タールの付着はないか。	●しんの手入れをする。（16ページ参照） ●効果のない場合は、しんを交換する。 （18ページ参照）
しん交換時	しん案内筒 パッキン	●のびたり、切れたり、傷んでひびが入っていないか。	●パッキンに、のび、切れ、ひびなどが入っていた場合は交換する。（19ページ参照）

■油タンク内の変質灯油や不純灯油を取り除くときは

●処置方法（火の気のないところで行ってください）

1. 化粧板内の対震自動消火装置セット金具を上げて、対震自動消火装置を作動させてください。
2. 油タンク内の灯油を図のように抜き取り、きれいな灯油で2〜3回洗ってください。
3. ごみなどが入っていたら、取り除いてください。
4. 良質の灯油を、油量計の針が「満」をさすまで給油してください。

しんの手入れもあわせて行ってください。
（16ページ参照）



しんの点検・手入れ（月1回）

変質灯油や不純灯油などでしんの上部にカーボンやタールが付着し、不具合が生じたとき（9ページ参照）は、しんの手入れをしてください。

■しんの手入れのしかた

● しんの手入れをするときは、風のあたらない場所で行ってください。
風があたると赤火が出たり、異常燃焼の原因になり危険です。また、しんの手入れ中はにおいがしますので換気をしてください。

1 油タンクの灯油を抜く（15ページ参照）

2 点火操作をし、正しい炎の状態で燃焼させる（11･12ページ参照）

3 そのまま灯油がなくなって、火力が小さくなるまで放置する

4 火力が小さくなったらしんを一杯に上げ、消火するまで燃焼させる

● しんがかたくなっているときは、しんの手入れを2～3回行ってください。
● しんの手入れ後のご使用は、給油後20分以上待ってしんに十分灯油がしみこんでから点火してください。
しんに十分灯油がしみないうちに点火すると、吸い上げ不足のため燃焼筒の赤熱不足が続くことがあります。

■次のようなときは新しいしんと交換してください

（18ページ参照）

● しんの手入れを行ってもカーボンやタールがとれず、効果がないとき。

● しんが水を含んでしまい、しんの上下操作が重くなったとき。

● しんの上部が消耗して、うすくなったり短くなったり、凹凸になっているとき。

8.定期点検

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。

- 2年に1回程度、シーズン終了後などにお買い求めの販売店又は、修理資格者（(財)日本石油燃焼機器保守協会（TEL 03-3499-2928）で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士）など）のいる店などに点検依頼されることをおすすめします。

9.故障・異常の見分け方と処置方法

- 次の表にもとづいて、お確かめください。
- 処置方法により処置しても良くならないときは、お買い求めの販売店にご相談ください。

原因 ＼ 現象	点火しない	燃焼筒が赤熱しない	炎がかたよる	においがする	赤火やススが出る	炎が大きくならない	しん上下操作が重い	しんが下がらない	しんがすぐ下がってしまう	消火しない	油タンクに灯油が入っているのに消火する	火のまわりが遅い	処置方法	参照ページ
水、変質灯油、不純灯油が混入している	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	油タンク内の水、油を抜き、きれいな灯油で洗い、しんも交換する	15 18
しんに十分灯油がしみこまないうちに点火した	●	●				●						●	給油後はしんを下げて20分以上待ち、しんに十分灯油がしみこんでから点火する	11
しんの上げすぎ				●	●								正しい炎の状態になるようにしんを調節する	12
しんの下げすぎ		●		●		●								
燃焼筒の据わりが悪い			●	●	●								燃焼筒つまみを左右に動かして据わりをなおす	11
長時間閉め切った部屋で使用している		●		●		●							窓をあけ、部屋の換気をする	2
しんにタールが付着している	●	●	●	●		●	●	●		●		●	「しんの手入れ」をする	16
しんの取り付けがしん押えにピッタリしていない							●	●					正しく取り付けなおす	19
点火ヒータのフィラメントの変形又は、断線	●												変形をなおすか交換する	14 20
乾電池が正しく入っていない又は、消耗している	●												⊕⊖を正しく入れる 新しい乾電池と交換する	7
燃焼筒部の変形又は、焼損		●	●	●	●	●							新しい部品と交換する	20
風又は、振動を受けている		●	●	●	●	●			●				風の当たらない場所で使用する 振動を受けないようにする	4
しん上下機構が故障している	●						●	●		●			販売店に依頼してすぐ修理する	–
対震自動消火装置が故障している									●				販売店に依頼してすぐ修理する	–
しんの上に燃焼筒がのっている			●	●	●						●		しん上下操作を繰り返し、燃焼筒つまみを左右に動かして据わりをなおす	11

10.部品交換のしかた

- ⚠注意 不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要の場合には、お買い求めの販売店又は、修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる販売店にご相談ください。

- ⚠注意 **部品交換は コロナ純正部品 とご指定ください。**

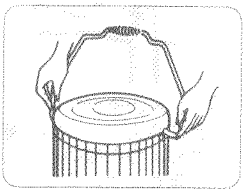
しんの交換

しんは必ずJIS適合検査合格品「コロナ純正しんSZ-20」（右のマーク付）をご使用ください。

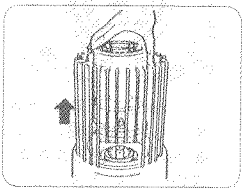
器具に適合しないしんや、粗悪なしんを使用しますと、性能を十分発揮できないばかりでなく火災や中毒の原因になります。

マークの色彩は白地に赤インクで表示されています。

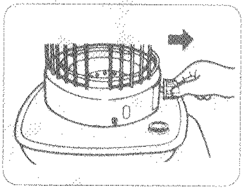
次の順序にしたがってください。



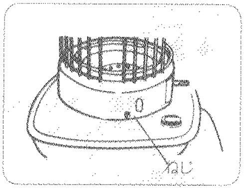
1．とってを左右に広げてはずしてください。広げすぎないようにしてください。



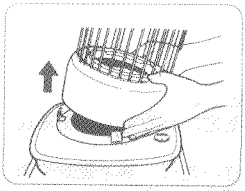
2．天板をはずし、燃焼筒を取り出してください。燃焼筒を落とさないようにしてください。



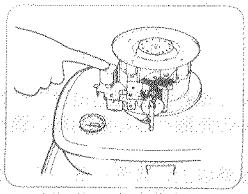
3．しん調節つまみをはずしてください。



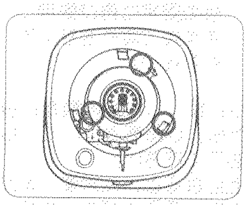
4．化粧板を固定している3個のねじをはずしてください。



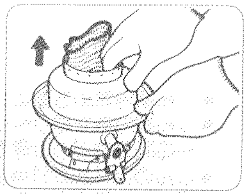
5．化粧板・ガードを手前に傾け、上向きにはずしてください。



6．ふりこを押して対震自動消火装置を作動させてください。

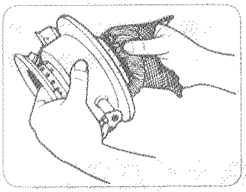


7．しん案内筒を固定してある3個のナットをはずして、しん案内筒を抜き取ってください。案内筒リングをいためないよう注意してください。



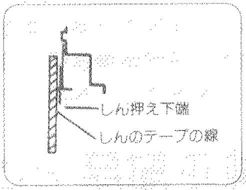
8．しん案内筒から油止カバーを引き抜いて、古いしんをはずしてください。

手ぶくろをはめるか、または替しんに付属のプラスチックの保護カバーを油止カバーに付けてはずしてください。

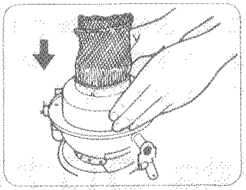


9．新しいしんを、しん案内筒の内側のしん押えのツメに、しんをさすようにして周り均一に内側へなじませて取り付けてください。必ず、対震自動消火装置が作動して、しんが一杯に下がった状態で取り付けてください。

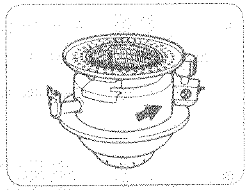
しん案内筒パッキンも点検し、のびたり、切れたり傷んでいた場合は交換してください。



10．しん押えの下端をしんのテープの線に合わせて取り付けてください。
しんを上げると、しんの出寸法がちょうど11㎜になります。

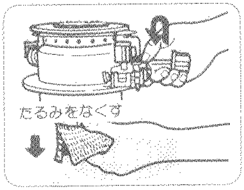


11．油止カバーの矢印（刻印）を正面に合わせて止まるところまで完全に押し込んで、もと通りに取り付けてください。

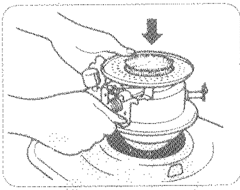


12．対震自動消火装置セット金具をセットし、置台止めねじの１本を対震自動消火装置本体の側面の穴に差し込んでください。

対震自動消火装置セット金具をセットしたままでねじを差し込んでください。

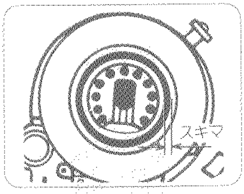


13．しん調節つまみを付けて、右方向に回し、しんをいっぱいに出した状態のまま、しんにたるみが出ないようしんの下部を軽く引いて油止カバーのしん押えのツメに差してください。

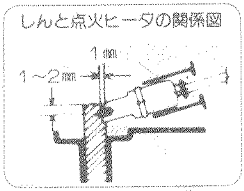


14．そのまま、しんが上下しないようしん調節つまみをつかんで、油タンクにもと通りセットしてください。セットしたら置台止めねじを必ず抜きとってください。

この置台止めねじは置台の固定に再び使用しますのでなくさないでください。



15．しんの上下するすきま（しん案内筒としん案内パイプとのすきま）は均一になるようにナット３個を少しずつ締め、最後にしっかりと締め付けてから対震自動消火装置が正しく作動するか確認してください。

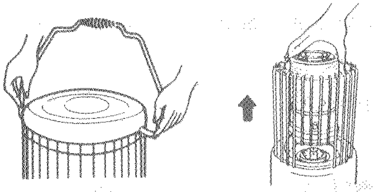


16．しんの出が11㎜のときに点火ヒータの位置がちょうど良いところに来るようになっています。
点火レバーを押し下げて点火ヒータの位置を確認してください。

- しん案内筒の３個のナットは、しん案内筒がピッタリするまで締め付けてください。
- しん案内筒を取り付けたら、しんを上下して、しんの先端としん案内筒の面とを合わせて見て、全周均一の高さかどうか確かめてください。
- しんの出寸法が11㎜以上になると、点火後、炎が基準以上に大きくなって、すすけたり、異常燃焼や消火しない原因となり火災になる恐れがあります。しんの出寸法は、必ず11㎜に揃えてください。
- しんの出寸法を確かめたら、対震自動消火装置の作動を確かめてください。
- しん上下の操作が重いとき、又は対震自動消火装置が正しく作動しないときは、
  - ・しん案内筒が片寄ってセットされています。
  - ・しんにシワがあったり、しん押えのツメになじんでいませんので６～16の手順に従ってセットしなおしてください。
- しんの出寸法、対震自動消火装置の作動確認がおわりましたら、ストーブをもと通りに組み立ててください。燃焼筒のつまみを持って左右に２～３回動かし、しん案内筒に正しく据っていることを確かめてください。
- しんの取り替え後は、必ず油量計の針が「満」をさすまで給油し、20分以上放置して、しんに十分灯油がしみるまでおまちください。

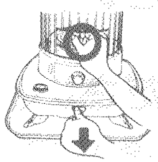
点火ヒータの交換

1 天板をはずし、燃焼筒を取り出す



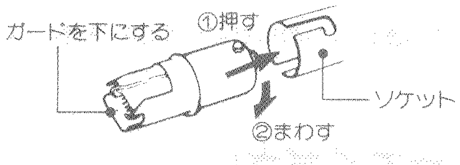
- とってを左右に広げて天板をはずし、燃焼筒を取り出してください。
- 乾電池も取り出してください。

2 点火ヒータをはずす



- 点火レバーを押し下げると、しん案内筒から点火ヒータが出てきます。
- 点火レバーを押したまま、古い点火ヒータを押しながら左にまわしてソケットからはずしてください。

3 新しい点火ヒータを取り付ける



- 点火ヒータのヒータガードを下側にして、ソケットに取り付けてください。

燃焼筒の交換

燃焼筒のガラスが割れたときは、お買い求めの販売店又は、お近くのコロナお客様ご相談窓口にご相談ください。

11.保管(長期間使用しない場合)

おしまいになるときは、日常の点検・手入れの項を参照し、次の要領で保管してください。

1.油タンク内の灯油を抜き取ってください。

(15ページ参照)

- 水、ごみなどを残したまま保管すると、さびや穴あきの原因になったり、しん上下不良の原因になることもあります。
- 灯油を抜いた後は、内部をよく乾燥させてください。

2.しんの手入れをしてください。(16ページ参照)

3.必ず乾電池を取りはずしてください。

4.内部のごみやほこりを取ってください。

- 化粧板まで取りはずし、掃除機などでごみやほこりを取り除いてください。
(取りはずし方は18ページ参照)

5.ストーブの外観を掃除してください。(14ページ参照)

- メッキ部分は柔かい布で、 塗装部分やほうろう部分はしめらせた布で汚れを落としてから、からぶきしてください。

6.対震自動消火装置を作動させてください。(15ページ参照)

7.包装箱に入れて、乾燥した場所に水平に保管してください。

- ⚠注意 傾けたり、横倒しの状態では絶対に保管しないでください。
  - 取扱説明書は、保証書と共に大切に保管してください。
  - 来シーズンにお使いになるときは、対震自動消火装置の作動を2~3回くりかえし、しんが最後まで下がることを確かめてください。

12.仕様

形式の呼び		SZ-20
種類		しん式・自然対流形
点火方式		電池点火
使用燃料		灯油（JIS1号灯油）
燃料消費量		0.364L/h
暖房出力		3.49kW（3,000kcal/h）
油タンク容量		4.0L
燃焼継続時間		約11.0時間
標準適室		木造　15.0m²(9畳)まで　　コンクリート　20.0m²(12畳)まで
外形寸法		高さ530mm　幅400mm　奥行400mm（置台を含む）
質量		7.1kg
しん	種類	普通筒しん
	呼び寸法	内径75mm　厚さ2.8mm
安全装置		対震自動消火装置
付属品		乾電池（単一）2個

13.アフターサービス

■保証について

- このコロナ石油ストーブには保証書がついています。「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受けとりになり、大切に保管してください。
- 保証期間はお買い上げいただいた日から1年間です。
- 次のような原因による故障および事故につきましては、保証の対象になりませんので注意してください。
  - ■変質灯油や不純灯油など、また灯油以外の燃料使用による故障や事故。
  - ■誤った使用方法による故障や事故。

■修理を依頼されるとき

- 本書の「故障・異常の見分け方と処置方法」（17ページ参照）の項に従って調べても良くならないときは、お買い求めの販売店又は、お近くのコロナお客様ご相談窓口にご相談ください。
- 保証期間中であれば保証書の規定に従って無料修理させていただきます。

■保証期間が過ぎているときは

- お買い求めの販売店にご相談ください。
修理によって使用できる製品についてはお客様のご要望により有料修理いたします。

■補修用性能部品の最低保有期間

- 石油ストーブの補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は製造打ち切り後6年です。
- この期間は、通商産業省の指導によるものです。